

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クラブ 旭校		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学を見据えた、一人ひとりに合わせた「体の土台づくり」	お子さまが自分の意思でスムーズに体を動かせるよう、遊びや運動を通して「体の根っこ」を整えるとともに、就学前に大切な「正しい姿勢の保ち方」や「鉛筆の持ち方」などの個別学習にも取り組んでいます。	定期的に研修を行い、最新の知識を取り入れることで、より一人ひとりに最適な支援方法を追求してまいります。
2	お友達・地域の方との関わりを学ぶグループ活動	ラジコン教室やグループ活動といった独自の体験を通じ、楽しみながらお友達との譲り合いや、社会性・自己肯定感を育む機会を作っています。	外部の講師の方との連携をさらに深め、お子さまの興味や可能性を広げる体験メニューをさらに充実させていきます。
3	ご家族に寄り添う、手厚い連携体制	日々の詳細な様子をアプリや面談でお伝えし、ご家庭と二人三脚でおさまの成長を見守ることを大切にしています。	保護者様同士が繋がる交流会や、きょうだい支援の機会も増やし、ご家族全体を支える活動を広げてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報の迅速な共有と発信	ホームページ等での公開は行っていますが、緊急時や重要なお知らせをよりタイムリーにお届けする点に改善の余地があります。	連絡用アプリをさらに効果的に活用し、大切なお知らせがより分かりやすく、即座に届くような体制を整えてまいります。
2	地域とのつながりを作る機会の拡大	ラジコン教室などの交流はありますが、地域行事への参加や一般の園児との交流機会はまだまだ限られています。	地域の行事へ積極的に参加したり、事業所のイベントに近隣の方を招待したりして、地域全体で見守る環境づくりを進めます。
3	施設環境のさらなる安全対策	建物の構造上、どうしても完全なバリアフリー化が難しく、小さな段差などが残っている箇所があります。	職員による安全な誘導を徹底するとともに、クッション材を設置するなど、物理的な面でも安全性を高める工夫を検討します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	クラブ 旭校					公表日	2026年3月31日	
			利用児童数	2	回収数	2		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2				基準を満たす広さを確保し、動線工夫でお子さまが安全に活動できる環境を整えています。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2				国の基準を遵守し、経験豊富な専門員を適正配置してお子さまに寄り添った支援を行います。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2				ボードや絵カード等での可視化や整理整頓により、活動の見通しを立てやすい環境を常に整えています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2				次亜塩素酸水での消毒を徹底し、温湿度管理や換気を行い、心地よい空間作りを維持します。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2				特性に合わせた支援計画を策定し、個別やグループワークを軸として支援を展開します。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2				個別支援とラジコン教室を通じ、運動や微細運動、集団活動を展開中です。今後も実態に即した公表に努めます。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2				ガイドラインに基づき計画を作成し、発達状況に合わせ最適な項目を選択して内容確認と署名を徹底しています。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2				5領域に基づき計画を作成し、最適な項目で署名を徹底しています。面談や日報での成果共有に努めています。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2				会議で児発管の助言を共有し、適切な支援を提供しています。一人ひとりの目標達成に向け丁寧に関わります。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2				就学前支援やグループ活動、ラジコン教室など多彩なメニューを通じ、一人ひとりの成長を丁寧に支援します。	
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1			1	外出支援での譲り合いや、ラジコン教室での講師交流など、活動成果を日報等で丁寧に共有し周知に努めます。		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2				契約時に各事項を丁寧に説明し同意を得ています。面談を通じ、常に安心・納得の再確認を徹底いたします。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2				計画内容を丁寧に説明し、同意の上で署名をいただいています。目標の分かりやすい共有に努めます。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2				相談時は電話やアプリ等で都度対応しています。保護者会での個別相談もを行い、支援の充実にも努めています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2				日報やチャット、送迎時の対話で詳細に報告しております。常に共通認識を持ち保護者様と連携を続けます。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2				半年ごとの面談やチャットで相談に応じ、保護者会でも個別相談を行いました。一人ひとりに寄り添います。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2				お子さま主体の視点を持ち、最善の利益を優先します。共感的な関わりを通じ安心してできる環境を作ります。	
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2				昨年6月に保護者会、12月末に支援参観を実施しました。個別相談も設け、今後も交流の場を充実させます。		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					契約時に窓口を説明し、相談には電話やアプリ等で迅速に対応しています。安心して相談できる体制を守ります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					送迎時やアプリ等で意向を伺い、日報で様子を共有しています。相談には迅速に対応し、意思疎通を図ります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2					年4回の会報誌や新聞を発行し、ブログでも活動を公開しています。今後も活動内容の周知を徹底します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					書類は鍵付き書庫で管理し、カメラも設置して防犯を徹底しています。今後も情報の適正な扱いに努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					契約時に説明し、入口に専用ファイルを常置して閲覧可能にしています。今後も緊急時の周知を徹底します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2					年2回の防災訓練を実施し、直近ではR8年3月20日に行いました。今後も訓練を継続し備えを強化します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					契約時に安全計画を説明し、同意を得ています。マニュアルの常置に加え、研修への参加で研鑽に励みます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					契約時に事故対応や身体拘束等の同意を得ています。有事の際はマニュアルに基づき、速やかに連絡します。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					個別支援の精査や可視化で、見通しを持って過ごせるよう配慮します。寄り添った関わりで安心を提供します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					個別プリントや手順の可視化で自立を促し、ラジコン教室等の体験型支援をさらに充実させていく考えです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					お子さまの確かな成長を実感できるよう、全職員が一丸となり専門性を高め、一人ひとりに深く寄り添います。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		クラブ 旭校		公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		●基準を満たす支援室で、内容に応じ個別と集団の空間を使い分けています。見通しの良い環境を整えています。	◆お子さまの動線や活動内容に合わせ、さらに死角のない安全な配置を追求します。空間活用を工夫します。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		●有資格者を中心に手厚く配置し、お子さまの状態に応じた柔軟な担当変更にも対応しています。	◆引き続き、職員間の連携をさらに密にします。より細やかな対応を目指し、専門性の高い配置を維持します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		●構造上、全バリアフリー化は困難ですが職員が付き添い、誘導しています。ツールでも可視化し、環境を整えています。	◆安全な誘導を徹底するとともに、微細な段差等への対策を検討し、より安心な環境作りを深めます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		●毎日の清掃と消毒を徹底し、季節の装飾等で温かみのある空間を作っています。心地よい環境を維持します。	◆引き続き、お子さまの動線に合わせた使いやすい収納配置を追求します。常に清潔で安心できる空間作りを継続します。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		●クールダウンが必要な際、一人で落ち着ける静養スペースを確保し、個々に合わせ対応しています。	◆引き続き、安心安全な環境作りを心掛けます。個別のニーズに応じた多様な居場所の提供を検討します。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		●PDCAサイクルを意識し、毎日の共有会や会議を通じ全職員が目標設定と振り返りに参画しています。	◆振り返りをより具体化し計画へ迅速に反映させます。現場の気づきを運営に活かして支援の質を高めます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		●アンケート結果を公表し、いただいたご意見を基に現状を把握しています。業務の見直しと課題解決を図っています。	◆分析結果を分かりやすく還元できるよう努めます。保護者様との信頼関係をさらに深めていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		●職員ミーティングで意見交換を行い、支援環境の改善に繋げています。風通しの良い職場作りを進めます。	◆日々の小さな気づきも改善案として活用できる仕組みを整え、ボトムアップの体制を強化します。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		●自己評価の公表に加え、保護者会や学校関係者の見学を積極的に受け入れ、外部視点を活かした透明な運営をしています。	◆得られた課題を行動計画に落とし込み、定期的な検証と改善を継続します。その他の第三者評価の実施も今後検討します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		●外部研修や事例検討を通じ、全職員で専門性の向上に努め、常に学びを支援に活かしています。	◆研修の知見を日々の支援に確実に還元します。個々のスキルアップを組織の力に繋げていきます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		●支援プログラムをHPで公表し、どなたでも活動内容を閲覧できる状態を整えています。	◆保護者の皆さまへ活動内容がより広く周知されるよう、積極的な情報発信に努めます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		●ガイドラインの領域を軸に、お子さまの特性や意向を軸に計画を作成し、状況の変化に応じて目標を修正しています。	◆引き続き、発達状況をきめ細かく踏まえ、よりご家族のニーズに寄り添った支援の充実に努めます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		●月例会議や共有会などのミーティングを開催し、支援に関わる全職員の共通理解を図っています。	◆引き続き、情報共有の機会をさらに増やし、多職種間の連携を深めるよう努めます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		●会議での情報共有に加え、職員が個別支援計画をいつでも確認できる体制を敷いています。	◆計画に沿った一貫性のある支援が常に行えるよう、職員間の共通意識の向上に努めます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		●外部機関の検査結果を把握し、適宜保護者面談を行いながら支援計画に活かしています。	◆引き続き、フォーマルとインフォーマル両面での評価を深め、適応行動の正確な確認に努めます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		●ガイドラインが示す支援のねらいに沿って、必要な項目を適切に計画へ反映しています。	◆引き続き、お子さまの特性や発達状況をより詳細に踏まえ、具体的な支援内容の設定に努めます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		●毎日の会議で全職員が意見を出し合い、多様な視点を遊びや活動の立案に反映しています。	◆役割分担を明確にして企画力を底上げし、多くの職員が多角的な視点で立案に参画できるよう努めます。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	●SSTや運動、プログラミング等の独自メニューを吟味し、意欲や発達に応じた継続的な活動を提供しています。	◆特性に応じた個別メニューを拡充し、飽きのこない楽しい支援や、目的が伝わりやすいプログラム立案に努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	●個別課題と小集団活動を柔軟に組み合わせ、一人ひとりの発達や社会性の課題に応じた支援を行っています。	◆集団が苦手な子への配慮を細分化し、個々のニーズに即した無理なく参加できる環境作りに努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	●共有会では児発管を中心に主担当や配慮事項を徹底共有し、職員間で支援方法や役割を確認しています。	◆急な状況変化にも即応できるよう連絡体制を効率化します。支援の連続性と安全性をさらに高めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	●終礼で日々の気づきを即座に共有して翌日の支援へ反映し、記録を確実に残して見返せる体制を整えています。	◆日々の振り返りから得た知見を蓄積していきます。長期的な視点での支援計画の質向上に繋げていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	●アプリ等への個別記録を徹底して活動を可視化し、客観的な振り返りから次回の改善へ繋げています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	●概ね6か月に1度のモニタリングを実施し、必要に応じて計画の再検討をしています。	◆関係機関とのネットワークをより強固にし、地域全体で支える連携体制の強化に努めます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	●児発管が主導して関係機関の会議へ参画し、地域の専門職と適切な支援方針を確実に共有しています。	◆開催時には管理者や担当者など最適な人員を選出し、地域と一体となった支援体制の構築に努めます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	●相談支援事業所を介してお子さまの紹介を受け、関係機関と密に連携して支援方針の共有を図っています。	◆関係機関や相談員との情報共有を深め、紹介後も円滑に支援を開始できる地域全体のサポート体制作りに努めます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	●保護者様や相談員を介して在籍園や就学先と情報を共有しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	●保護者様や相談員を介して就学先と調整し、現地でのモニタリングや情報共有を行い支援に繋げています。	◆学校等との連携をさらに強化し、お子さまが安心して移行できるよう、一貫した方針の共有に努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	●こども発達支援センターで発達検査や知能検査を受けた場合、その報告書を保護者同意のもと共有しています。また、こども発達支援センター等が地域に向けた研修を実施した際には参加しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	●学校行事の共有や併行通園の調整に努めるほか、土曜のラジコン教室でのボランティア講師との地域交流を行っています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	●アプリや送迎時の対話で状況を即座に共有し、定期的な面談で課題の共通理解を深め、一貫した支援を徹底しています。	◆ご家庭の些細な悩みにも寄り添えるよう、さらに話しやすく専門性の高い相談支援体制の構築と環境作りに努めます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	●保護者会でのペアトレや研修会を通じ家族支援を徹底しています。都度の面談で個別のニーズにも深く寄り添います。	◆より多くの方が参加しやすい開催方法を柔軟に検討し、保護者様の思いに応える支援のさらなる拡充に努めます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	●重要事項説明書に基づき料金体系等を丁寧に説明し、不明点がないよう対面での再確認を徹底して納得感を高めます。	◆契約内容の透明性を常に維持し、法令改正等の最新情報を迅速かつ分かりやすくお伝えできる体制構築に努めます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	●面談でお子さまと家族の意向を最優先に反映し、優先順位を精査した上で最善の利益を追求する計画を策定します。	◆成長に伴う細かな心境の変化を機敏に汲み取れるよう、日常のヒアリングの質と観察力のさらなる向上に努めます。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	●計画書を提示し支援内容を丁寧に解説。面談で十分に納得いただいた上で同意をいただき、速やかに交付しています。	◆図示等を用いて直感的に理解しやすい説明を工夫し、保護者様の納得感をさらに高める丁寧な対応に努めます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	●半年に一度のモニタリングに加え、アプリで状況を即座に共有し、専門的知見に基づいた実効性のある支援を徹底します。	◆面談機会をさらに充実させ、多様な悩みに寄り添えるよう、相談支援体制の専門性と質のさらなる向上に努めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	●定期的な保護者会を開催し、親同士の繋がりがりや情報共有を支援。ご家族で参加できる交流の場を保障しています。	◆今後もご家族で参加できる機会を柔軟に検討し、保護者様同士の交流がより深まるような支援の拡充に努めます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	●苦情相談窓口を設置し、頂いた意見を真摯に受け止め迅速に対応。透明性の高い誠実な運営を徹底しています。	◆周知を徹底し、些細なご意見も吸い上げられるようアンケート方法を見直し、さらなる満足度の向上を図ります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	●会報誌やブログで活動を可視化し、支援の様子を継続的に発信。行事予定等の情報を迅速に共有しています。	◆引き続きHPやSNSの活用をさらに進め、緊急連絡等の重要情報も含め、より分かりやすくタイムリーな発信に努めます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	●守秘義務契約を徹底し、鍵付き書庫やID管理で厳重に保管。漏洩防止に向けた情報管理を徹底しています。	◆デジタルデータの管理体制をさらに強化し、最新のセキュリティ対策を講じることで情報の安全性を高めます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	●タイマーや視覚カード等、お子さまの特性に合うツールを用い、円滑な意思疎通と分かりやすい伝達を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	●防災訓練やラジコン教室で地域の方を招き交流を推進しています。地域に開かれた共生社会に資する運営を行っています。	◆地域の行事にも積極的に参加し、住民の方々との相互理解を深めることで、地域福祉の拠点としての役割を担います。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	●感染症や事故防止マニュアルを厳守し、流行状況に応じた警戒態勢を構築して実践的な研修と訓練を徹底しています。	◆マニュアルの設置場所や内容の周知をさらに徹底し、緊急時に即応できるよう実践的な訓練の充実にも努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	●災害時継続計画を策定し、3月・9月の年2回、防災・避難訓練を継続しています。（直近は令和8年3月に実施済みです）	◆BCPの内容について、全職員への更なる周知・定着を図ります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	●アセスメントでの確認や定期的な聞き取りを行い、服薬や既往歴等の最新情報を常に把握し共有しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	●医師の指示書を基に除去食等の複数確認を徹底し、小麦粉粘土等の教材も同意を得た上で用いるなど安全を優先しています。	◆全職員への指示内容の共有をさらに迅速化し、定期的な確認と緊急時シミュレーションの継続で安全性を高めます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	●安全計画を策定し全職員で周知しています。研修や訓練を通じ、安全管理を徹底した環境下で支援しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	●契約時や会報誌を通じ、事業所の安全対策や避難計画を保護者様へ伝えていきます。安心感の醸成に努めています。	◆災害時の連絡手段や避難場所を可視化して発信し、安全計画のさらなる周知と家庭との緊密な連携を深めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	●危険事例や小さな気づきを即座に記録し、会議での原因分析と対策共有を通じて全職員で再発防止を徹底しています。	◆ヒヤリハットの収集をさらに強化し、事故の未然防止を追求します。リスク点検を日々徹底します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	●定期的な研修で権利擁護意識を高め、特に身体接触の多い幼児期への配慮など日々の支援を常に省察しています。	◆外部研修の知見を内部で共有し、職員同士が声を掛け合える風通しの良い組織作りと支援の質向上に邁進します。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	●身体拘束適正化委員会を設置し、ゼロを原則に必要性を厳格に検討。契約時の丁寧な説明と同意を徹底しています。	